

平成26年4月25日
自動車局

<速報>

ホイール・ボルト折損による大型車の車輪脱落事故が増加しています！

- ・平成25年度19件発生（前年度比4件増／約3割増）、2年連続増加。
- ・昨年11月から今年3月の冬期に13件と多発、うち2件が人身事故。
- ・2月と3月に7件と集中発生！積雪地域の発生率が高くなっています！

規定トルクでのホイール・ナット締付け等の適切な車輪の脱着作業が重要です！併せて、日常点検をはじめとした定期点検の励行が必要です！

今般、平成25年度中の大型車（車両総重量8トン以上のトラック又は乗車定員30人以上のバス等）のホイール・ボルト折損による車輪脱落事故の発生状況がまとまりましたので公表します。（別紙1参照）

当該事故が2年連続で増加し、平成25年度も前年度比約3割増と大きく増加したことから、適切な車両管理により事故防止が図られるよう、大型車の使用者に対して、改めて注意喚起することとしました。

<発生状況>

大型車のホイール・ボルト折損による車輪脱落事故の件数は、平成16年度の87件をピークに減少傾向が続いていましたが、一昨年度（平成24年度）から増加に転じ、昨年度（平成25年度）も前年度比4件増（3割増）の19件と大きく増加しており、特に、昨年11月以降では13件、とりわけ2月と3月に7件（うち人身事故2件）と多発し、憂慮すべき状況となっています。

大型車のホイール・ボルト折損による車輪脱落事故については、一度発生するとその影響は甚大なものとなります。

平成14年度から平成25年度までに発生した事故は392件であり、月別の発生状況を見ると2月に63件、3月に55件と、特に2月と3月の冬から初春の時期に発生が集中しています。また、地域別（使用の本拠の位置別）の発生状況を見ると、積雪地域の発生率が高い傾向が見られます。

2月と3月に発生が多くなる原因の1つとして、例年10月から12月にかけて夏用タイヤから冬用タイヤに交換する際にホイール・ボルトとナットの締結不良（締付力不足、誤組、過締等）があり、ボルトの疲労破壊が進行して数ヶ月後に集中的に折損し、車輪の脱落が発生することが考えられます。

そのため、大型車の使用者は、規定トルクでのホイール・ナット締付けを確実に行う等、ホイールの脱着作業を正しく実施することをはじめ、適切な車両管理の徹底をお願いします。また、日常点検をはじめとした定期点検においてホイール・ナットの脱落・緩みやホイール・ボルトの折損等の異常の有無を重点的に点検してください。（詳しい点検整備の実施方法は別紙2をご覧ください。）

※ ホイール・ボルト折損の主な原因は、①ホイール・ナットの締付力不足、②ホイール・ボルト等の誤組（スチールホイールにアルミホイール用のボルトを使用する等）、③ホイール・ナットの過締めと推定されています。

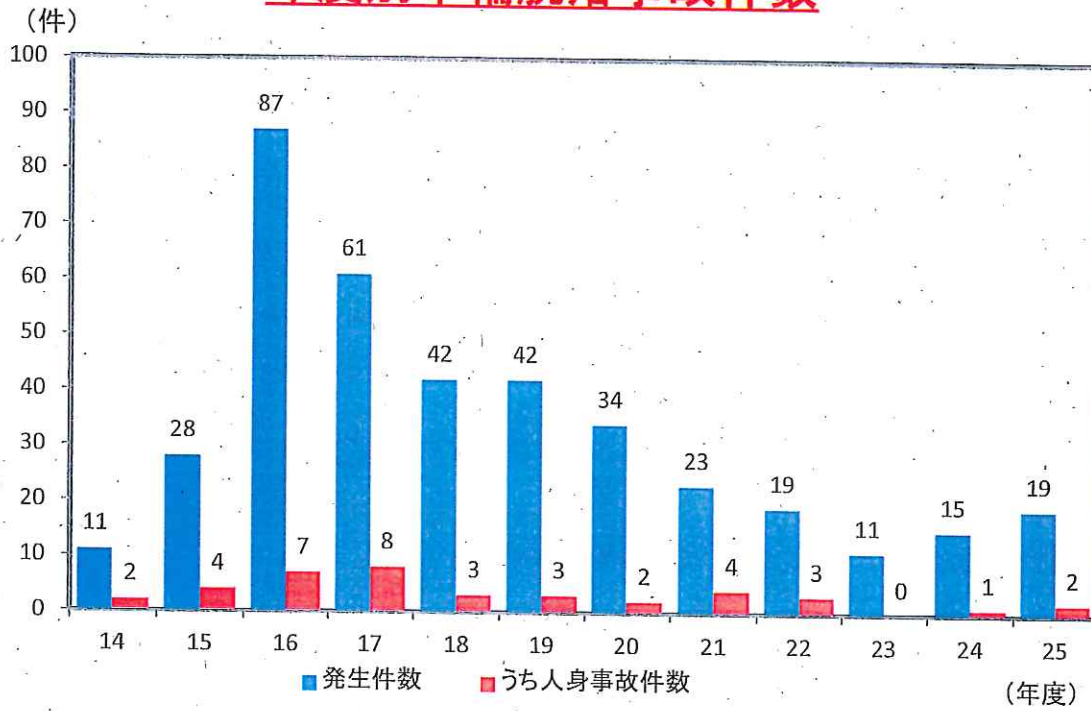
<問い合わせ先>

国土交通省 自動車局 整備課 山本、天野

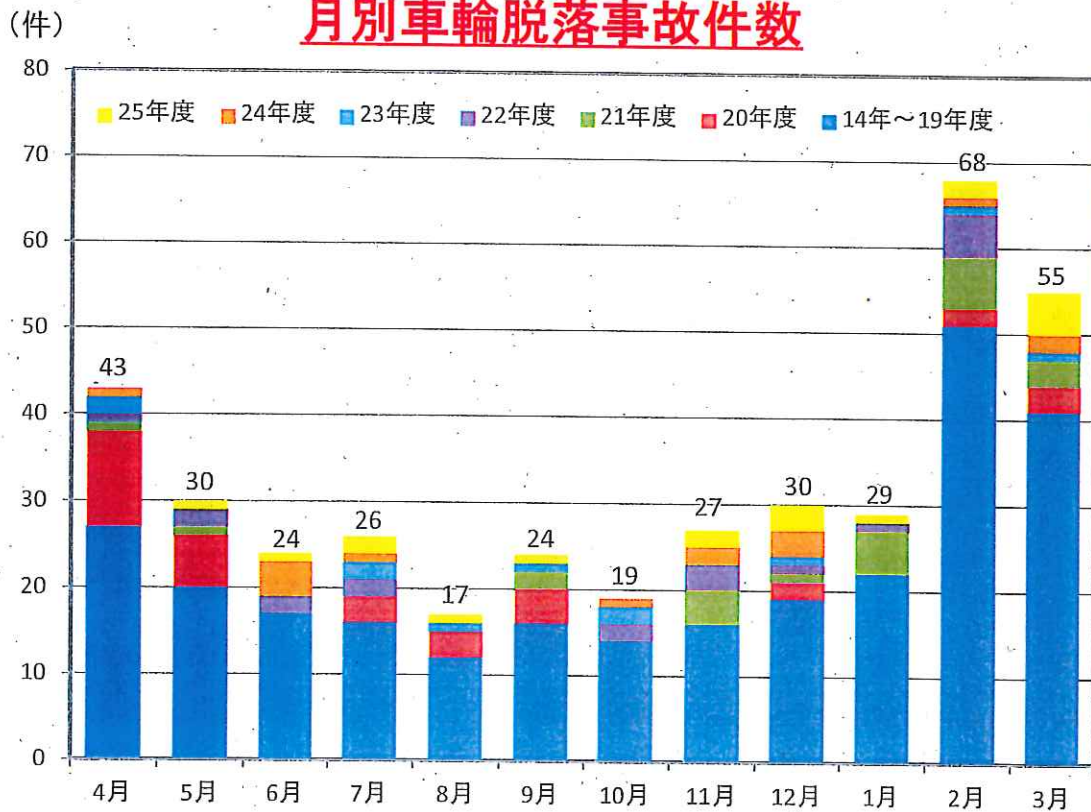
TEL : 03-5253-8111 (内線:42412, 42415) 03-5253-8600 (直通) FAX:03-5253-1639

車輪脱落事故発生状況

年度別車輪脱落事故件数



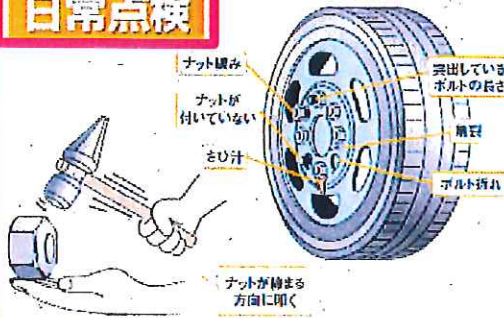
月別車輪脱落事故件数



追加された大型車のホイール・ボルト関係の点検内容

 大型車：車両総重量8トン以上のトラック又は乗車定員30人以上のバス 

日常点検



1 目視での点検

- ホイール・ナットの脱落やホイール・ボルトの折損はないか。
- ホイール・ボルトのまわりにさび汁がたまり跡はないか。
- ホイール・ナットから突出しているホイール・ボルトの長さに不揃いはないか。

2 点検ハンマなどを用いての点検

- ホイール・ボルトの折損やホイール・ナットの緩みがないか、ホイール・ナットの下側に指を添えて点検ハンマでホイール・ナットを叩いたときに、指に伝わる振動が他のホイール・ナットと異なったり、濁った音がないか。

3月点検

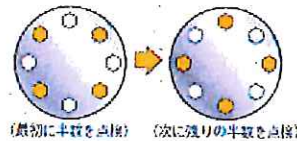
1 JIS方式のシングル・タイヤ及びISO方式のタイヤの場合

- トルク・レンチを用いるなどによりホイール・ナットを規定トルクで締め付けます。

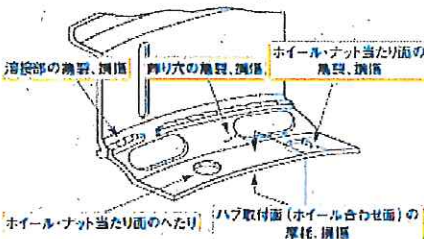
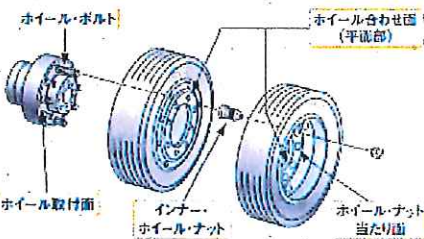
2 JIS方式のダブル・タイヤの場合

- ホイール・ボルトの半数(1個おき)のアウトナー・ナットを緩めて、インナー・ナットをトルク・レンチを用いるなどにより規定トルクで締め付けます。
- 次に、緩めたアウトナー・ナットをトルク・レンチを用いるなどにより規定トルクで締め付けます。
- その後、ホイール・ボルトの残りの半数のアウトナー・ナット及びインナー・ナットについても同様の措置を講じます。

▶ダブル・タイヤの層付点検手順(右側タイヤの場合)



12月点検



1 ディスク・ホイールを取りはずして行う点検

目視などにより次の点検を行います。

- ホイール・ボルト及びホイール・ナットに亀裂や損傷はないか。
- ホイール・ボルトに錆びはないか。
- ホイール・ボルト及びホイール・ナットにさびの発生はないか。
- ホイール・ボルト及びホイール・ナットのねじ部につぶれ、やせ、かしり等の異状はないか。
- ディスク・ホイールのボルト穴、ナット穴のまわり及び溶接部に亀裂及び変形がないか、ホイール・ナットの当たり面に亀裂、損傷及びへたりのないか。
- ディスク・ホイールのハブへの取付面、ディスク・ホイールの合わせ面に摩耗や損傷がないか。

2 ディスク・ホイールを取り付ける際に行う点検

- ディスク・ホイールのハブへの取付面、ディスク・ホイールの合わせ面、ホイール・ボルト及びホイール・ナットのねじ部等を清掃し、さび、ゴミ、泥、追加塗装等の異物を取り除きます。
- ホイール・ボルト及びホイール・ナットの潤滑
 - JIS方式ホイール・ボルト及びホイール・ナットのねじ部並びにホイール・ナットの当たり面に規定の注油を塗布します。
 - ISO方式ホイール・ナットねじ部及びホイール・ナットとワッシャとの間にもみ規定の注油を塗布します。
- ホイール・ナットの締め付けは、対角線順に2～3回に分けて行い、最後にトルク・レンチを用いるなどにより規定トルクで締め付けます。
- インパクト・レンチで締め付ける場合は、締め時間、圧縮空気圧力等に留意し、締めすぎないように十分注意を払い、最終的な締め付けは、トルク・レンチを用いるなどにより規定トルクで締め付けます。

3 注意事項

- JIS方式のダブル・タイヤの場合は、インナー・ナットについて、**【1】ディスク・ホイールを取りはずして行う点検**及び**【2】ディスク・ホイールを取り付ける際に行う点検**を行った後、アウトナー・ナットについてインナー・ナットと同様に点検を行います。

- ディスク・ホイールの取り付け後、ディスク・ホイールの取付状態に適度な馴染みが生じる走行後(一般的に50～100km走行後が最も馴染みとされています。)、3月点検に示す方法でホイール・ナットを締め付けます。
- 錆防止のため、ディスク・ホイールの種類(スチール製、アルミ製)に合ったホイール・ボルト及びホイール・ナットを使用してください。

産経 web 版 H26.2.18

中国道で12台衝突 2人負傷、兵庫・西宮

2014.2.18 07:30

17日午後10時半ごろ、兵庫県西宮市の中国自動車道下り線で、トラックや乗用車など12台が絡む事故があった。

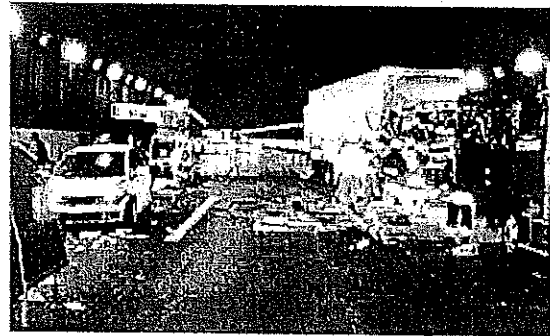
同県宝塚市消防本部によると、2人が負傷しているという。県警高速隊が詳しい状況や事故の原因を調べている。

中国自動車の下り線は、宝塚インターチェンジ（IC）－西宮北ICが一時通行止めとなった。

朝日 web 版 H26.2.18

17日午後10時20分ごろ、兵庫県西宮市塩瀬町生瀬の中国道下り線で計12台の車が絡む事故が起き、大型トラックの男性運転手が右足を骨折するなど2人が負傷した。西宮北インターチェンジ(IC)と宝塚IC間の下り線が18日午前0時10分から午前4時半まで通行止めになった。

県警高速道路交通警察隊によると、走行中に外れた大型トレーラーのタイヤに後続の車が乗り上げるなどして事故が起きたという。



破片が散乱した事故現場＝18日未明、兵庫県西宮市の中国道、兵庫県警提供

タイヤ脱落 1人軽傷
13日午前11時ごろ、
広島市安芸区上瀬野の
国道2号で、走行して
いた同市安佐北区の運
転手男性(35)の大型ト
ラックから右側の後輪

事件・事故

産経新聞 掲載記事
2014 (平成26年) 3月14日 (金)

トラック後輪外れ 対向車に衝突

会社員軽傷

13日午前10時55分ごろ、
広島市安芸区上瀬野の国道
2号で、走行中の大型トラ
ックの後輪タイヤが突然外
れ、対向車線を走っていた
同市東区戸坂くろめ木の男
性会社員(30)運転の乗用車
に衝突し、男性は首に軽傷
を負った。トラックの男性
運転手(35)は広島市安佐北
区三入Iにけがはなかつ
た。

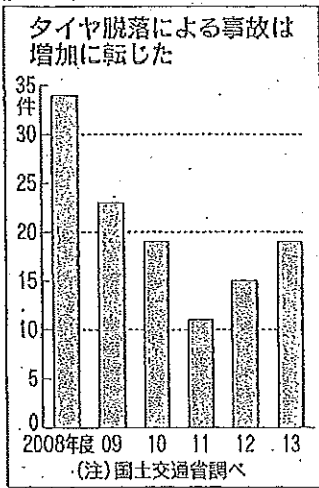
海田署によると、現場は
片側2車線で大型トラック
は西方向に走っていた。ト
ラックのタイヤは前後に計
10本あり、うち右側の後輪
が脱落し、対向車線を
走ってきた同市東区の
会社員男性(30)の乗用
車に衝突。会社員男性
が首に軽いけがをし
た。海田署が大型トラ
ックの整備状況などを
調べている。外れた後
輪は直径1尺、重さ70
kg。

1本が外れ、対向車の胸ま
に当たった。同署が原因を
調べている。

タイヤ脱落事故 警戒

トラックやバス 昨年度19件

トラックやバスのホイールなどが壊れ、タイヤが脱落する事故が相次いでいる。2013年度は全国で19件発生。12年度に比べ4件多く、2年連続で増加した。国土交通省によると、タイヤ交換時にボルトを適正に締めないケースが目立つ。タイヤの脱落は他の車を巻き込み、大きな事故につながる恐れがあり、国交省は点検や整備を徹底するよう呼び掛けている。



国交省、被害甚大の恐れ 「点検の徹底を」

今年3月、広島市の国道で大型トラックの後タイヤが突然外れ、対向車線を走行中の乗用車に激突、乗用車の運転手が首に怪いけを負った。2月にも兵庫県西宮市の中国自動車道で大型トラックのタイヤが外れ、12台が絡む事故が起きた。国交省が13日までに集計した大型車（総重量8ト以上のトラックまたは乗車定員30人以上のバスなど）の事故統計によると、ホイールやボルトの破損によるタイヤ脱落事故は13年度、全国で19件（うち人身事故2件）発生した。12年度も前年度比4件増の15件（同一件）だった。

02年に三菱自動車製大型車のタイヤ脱落事故が起きたことを受け、メーカーや運送会社などは安全対策を本格化。事故件数は04年度の87件をピークに減少傾向が続き、11年度は11件までになったが、13年度は10年度と同じ水準になった。

国交省自動車局の担当者「最近の事故増加の理由は不明」としながらも、整備不良や点検不足がトラブルにつながる例は多いと指摘する。中でもタイヤ交換時にボルトの締め方が甘かったり、逆にきつく締めすぎてボルトが折れたりして、数カ月後に事故を起こすケースが目立つという。今年4月の消費増税

前にはタイヤの駆け込み交差が増えたといわれ、担当者は「夏の行楽シーズンに脱落トラブルが起きないか心配だ」と話す。

トラックやバスの使用年数が延びていることが背景にあるとの指摘もある。昨年（13年度）の貨物車両の平均使用年数は約13年で、10年前に比べて2年延びた。「長く使っている車ほど、十分な整備をしない傾向がある」（国交省担当者）という。

同省は4月、全日本トラック協会や日本自動車整備振興会連合会など業界団体を通じて、タイヤの点検・整備を徹底するよう通知した。バス会社や運送会社を対象に車両整備の研修会を開くなど啓発も進めるといふ。

平成26年5月14日(水) 朝刊 38面 新聞

ホイール・ホルト折損による

大型車の車輪脱落 事故2年連続増加

国土交通省が再発防止の通達

適正かつ確実な整備を

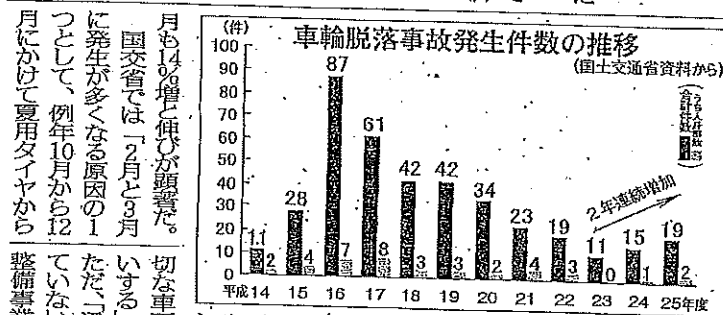
ホイール・ホルト折損による大型車の車輪脱落事故が2年連続して増加したことを受け、国土交通省自動車局は4月25日付でトラック、バス等の使用者業界をはじめ自動車、整備、タイヤ等の業界に注意喚起および再発防止の旨、通達した。昨年11月以降に事故が多発し、今年2～3月には人身事故を伴う事故が複数発生しており、改めてタイヤ・ホイールの適正かつ確実な点検・整備が求められている。

同省の発表によると、平成25年度中の大型車（車両総重量8トン以上のトラックまたは乗車定員30人以上のバス等）のホイール・ホルト折損による車輪脱落事故件数は19件発生した。これは2年連続の増加で、昨年11月から今年3月までの冬期に13件発生した。とくに2、3月に7件と集中し

トラックの右後輪が脱落し対

向車線に飛び込み、そこに軽自動車と正面衝突した。幸い、軽自動車を運転していた62歳の男性は軽傷で済んだが、一歩間違えば大事故となるところだった。このほか事故後、車両メーカに調査依頼されたケース、裁判でタイヤ店や自動車整備事業者が巻き込まれたケースもあるという。

一方、景気の回復傾向を背景に昨年後半からトラック輸送が活性化している。自動車輸送統計によると、大型車を含む「営業用普通車」の輸送トンキ口は昨年8月以降、平均して前年同月比で2ケタ増を続けている。とくに10月は25%増、11



冬用タイヤに交換する際に、ホイール・ホルトとナットの締結不良（締め付け不足、異種、過締め等）があり、ホルトの疲労破壊が進行して数カ月後に集中的に折損し、車輪の脱落が発生することが考えられる」と見ている。このため「規定トルクでの締め付けを確実に行う等、ホイールの着脱作業を正しく実施すること、適切な車両管理の徹底をお願いする」旨の通達を出した。ただ、「運送先の団体に属していないトラック事業者や整備事業者等への啓発が徹

底しつらく、課題だ（国土交通省自動車局整備課との懸念もある。事実、例えば長距離トラックで増締め（タイヤミンク）を逃してしまつケース、増締めのためにタイヤ整備場に入庫するのを嫌うケースなど問題は多々ある。車両の使われ具合によつて整備作業に違いが出てくることも確か。ここはタイヤ業界としても車輪脱落事故防止に一役買いたいところ。タイヤ協会は「大型車の車輪の取付け・取り外し作業については、JATMA会員メーカ各社で個別に作業マニュアルを作成したり、系列販売会社、販売店へ定期的な講習会を開催したりして、適正作業の推進を図っている。また、今回の国土省からの車輪脱落事故防止の再徹底依頼文書についてもすみやかに会員メーカ各社に通知し、各社縦断で周知を行う」としている。

自動車タイヤ新聞

平成26年

5月7日と14日合併号